

座 標 変 換 プ ロ グ ラ ム

操 作 マ ニ ュ ア ル

令和4年 世田谷区

目 次

1. 起動・終了	1
1－1. プログラムの起動	2
1－2. プログラムの終了	4
2. 設定	5
2－1. 変換方法の変更	6
2－2. プリンタの設定	7
3. 単点変換	8
3－1. 平面直角座標による入力	9
3－2. 経緯度による入力	12
4. 一括変換	15
4－1. 設定	16
4－2. データファイルの選択	18
4－3. ファイルの一括変換処理開始	23
4－4. 一括変換の終了	24

1. 起動・終了

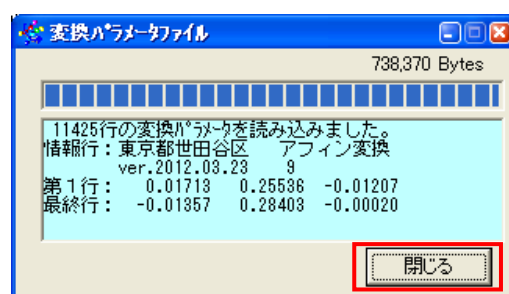
1. 起動・終了

1-1. プログラムの起動

「座標変換プログラム.exe」を実行すると、起動画面が立ち上がります。



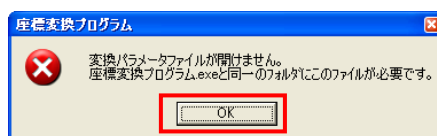
起動中に変換パラメータファイルを読み込みます。



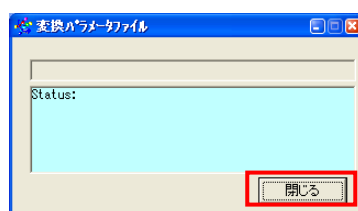
変換パラメータファイルが正常に読み込まれた後、表示画面の「閉じる」ボタンを押下します。

座標変換画面に移ります。

注) 起動画面の後に次の画面が出た場合

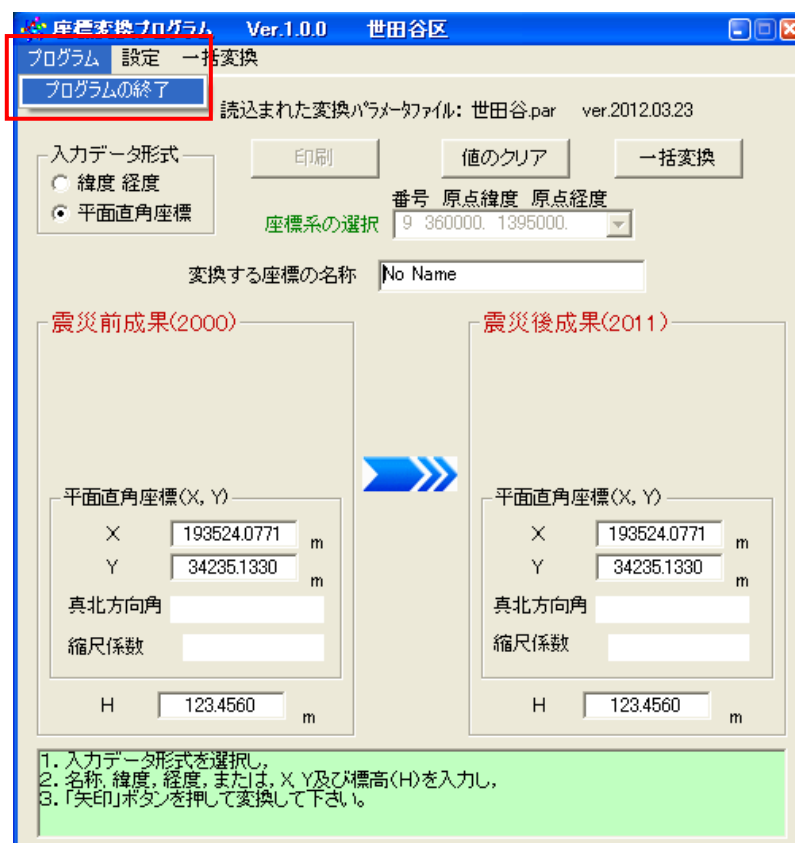


変換パラメータファイルが、座標変換プログラムと同じフォルダに無い為に起きるエラーです。「OK」ボタンを押下して、警告画面を閉じます。



変換パラメータファイル読み込み画面の「閉じる」ボタンを押下して、プログラムを終了します。変換パラメータファイル「世田谷.par」が座標変換プログラムと同じフォルダに在ることを確認してから再度プログラムを起動してください。

1 - 2. プログラムの終了



座標変換画面の左上メニューより、「プログラム」にマウスを移動し左クリックすることにより「プログラムの終了」が表示されますので、これをマウスの左クリックをする事でプログラムが終了します。

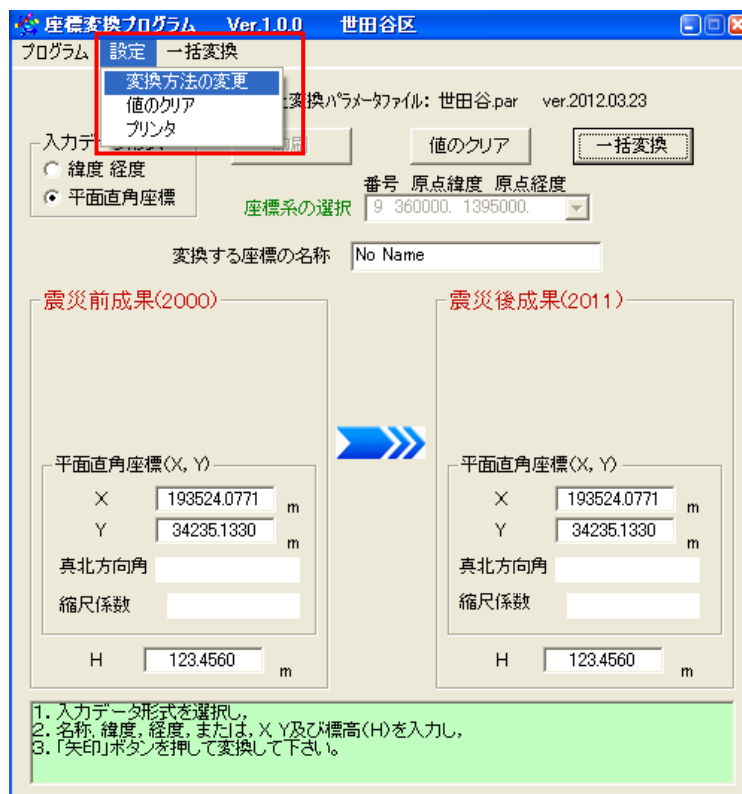
2. 設定

2. 設定

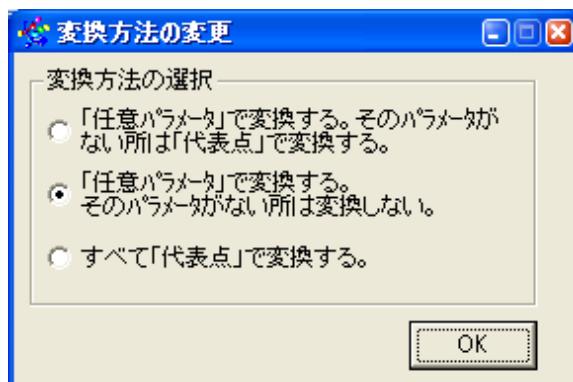
2-1. 変換方法の変更

「変換パラメータファイル」は、世田谷区全域をカバーしていますが場合によっては行政界近傍で変換出来ない箇所が出るかもしれません。

その場合は、変換方法を変更できます。



座標変換画面の左上メニューより、「設定」にマウスを移動し右クリックすることにより「変換方法の変更」が表示されますので、これをマウスの右クリックをする事で変更画面に移動します。



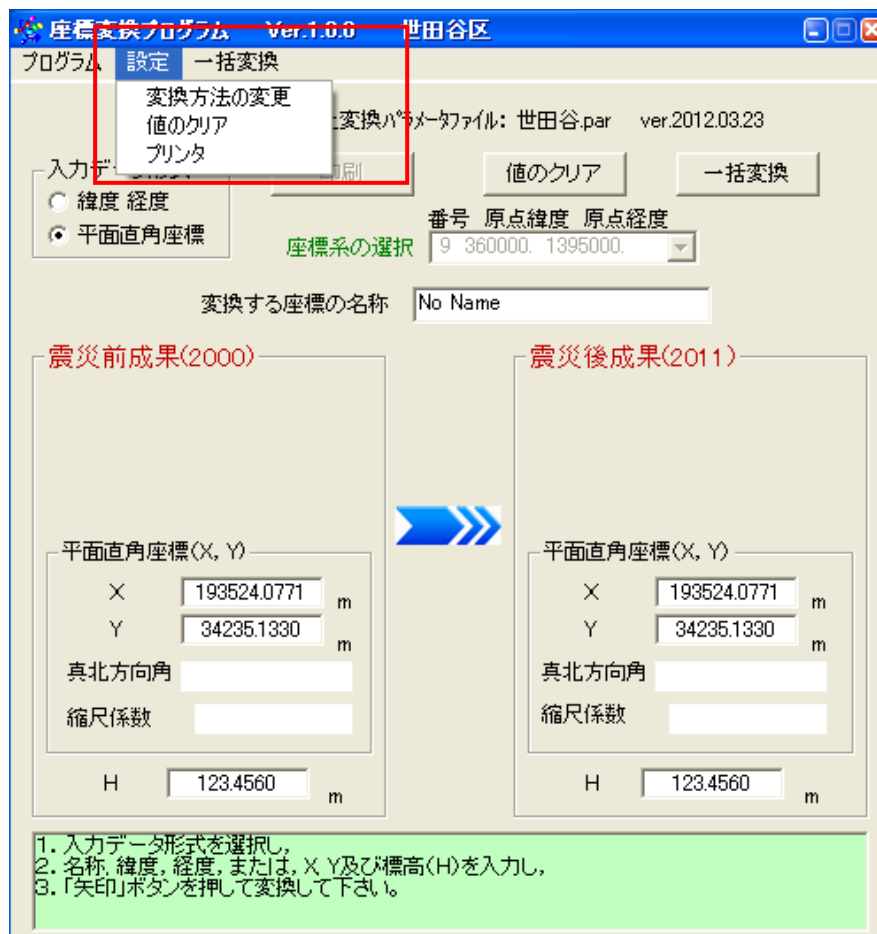
「任意パラメータ」とは、「世田谷.par」を指します。

「代表点」とは、「世田谷.par」の X,Y,H 各補正值の平均値を指します。

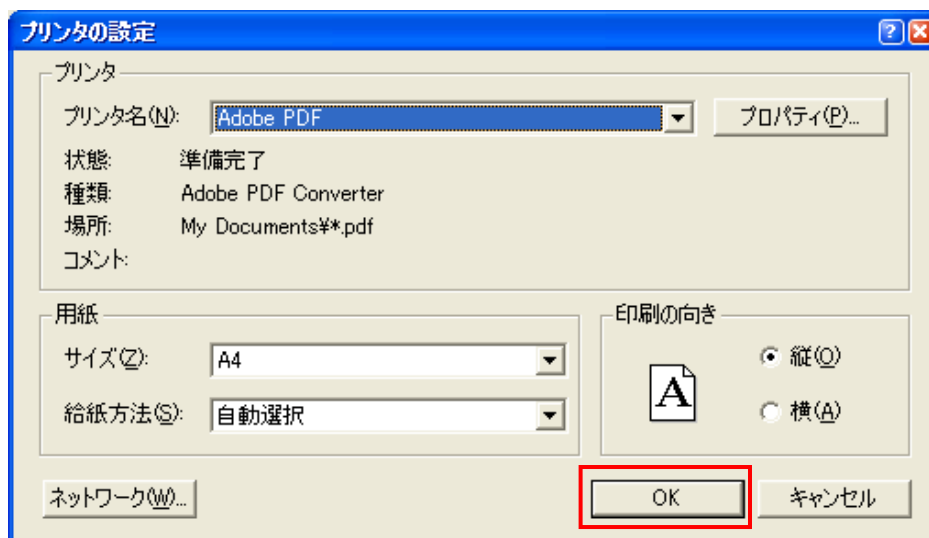
規定値は、『「任意パラメータ」で変換する。そのパラメータがない所は変換しない。』になっています。

2-2. プリンタの設定

変換結果を印刷する場合、事前に出力するプリンタを選択します（通常使っているプリンタ（Windows の規定値）に印刷する場合は、設定の必要はありません）。メニューバーより、「設定」→「プリンタ」を選択します。



印刷の各種設定を行い、「OK」ボタンを押下します。



3. 单点变换

3. 単点変換

単点変換は、任意の点について「平面直角座標」又は「経緯度」を入力することにより座標変換を行う方法です。単点変換による変換方法は、下記のとおりです。

3-1. 平面直角座標による入力

平面直角座標を入力することにより座標を変換する方法です。

①「入力データ形式」の選択欄で、「平面直角座標」を選択します。その後、「値のクリア」をクリックし、入力値及び変換結果値を空欄にします。

- ②変換する座標の名称を入力し、「Enter」キーを押下します。入力文字の文字数制限はありません。
- ③X座標を半角文字で入力し、「Enter」キーを押下します。
- ④Y座標を半角文字で入力し、「Enter」キーを押下します。
- ⑤標高値（H）を半角文字で入力し、「Enter」キーを押下します。

※X・Y・Hの単位はメートルとし、小数点は必ず入力してください。また、符号と数字は密着させてください。ただし、“m”等の文字は入れないでください。X・Y・Hの数字は半角で入力してください（入力例参照）。

<入力例> 入力値が「-3939.3856m」の場合

[X・Y・Hの正しい入力例]

-3939.3856

[X・Y・Hの間違った入力例]

-3939.3856m

← “m”が入っている

-3939_____

← 小数点以下が入力されていない

-3939,3856

← 小数点がカンマ”,”になっている

-_3939.3856

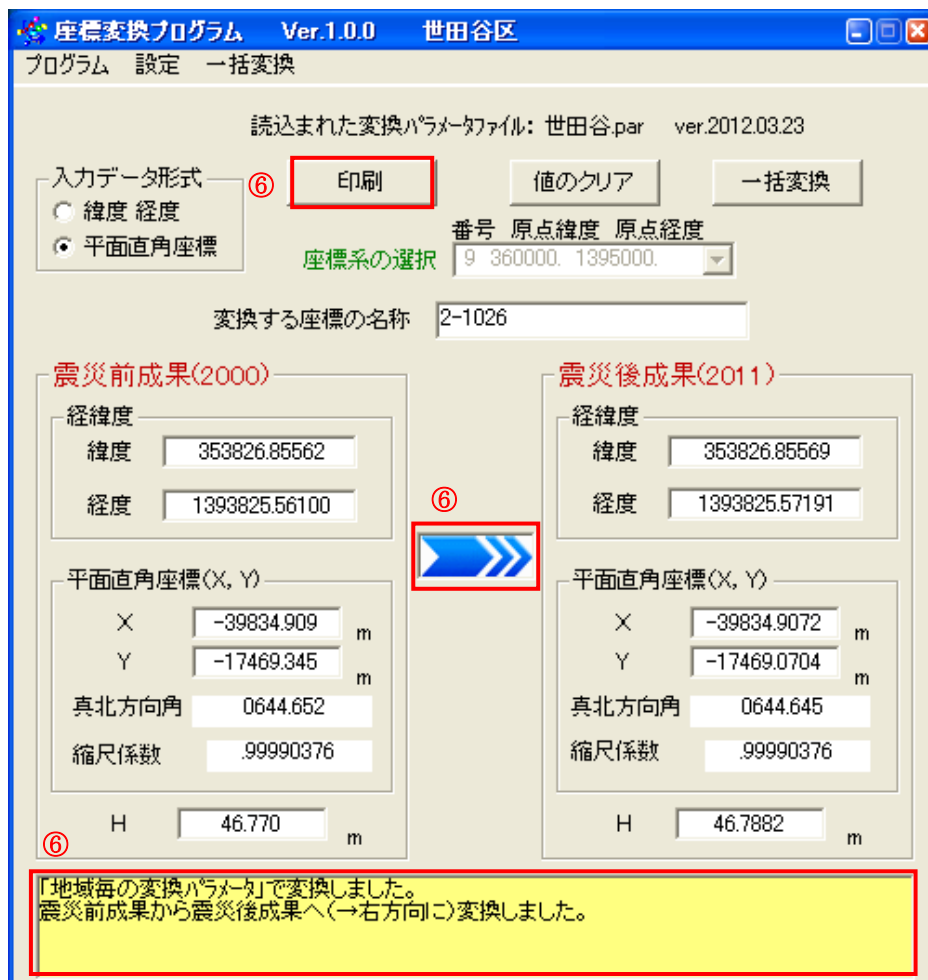
← 符号と数字の間に半角スペース等余計な文字が入っている

- 3 9 3 9 . 3 8 5 6

← 符号と数字が全角となっている

※③、④、⑤すべてを入力しないと変換できずエラーになってしまうので、必ず入力するようにしてください。

⑥座標変換は、中央の矢印ボタンを押下（または「Enter」キーを押下）し、座標変換結果を確認します。パラメータで変換できたかどうかは、カランのメッセージボックス（最下段）に表示されます。座標変換結果を印刷する場合は、「印刷」ボタンを押下します。



座 標 変 換 計 算

変換パラメータファイル名：世田谷.par
 変換パラメータの範囲：東京都世田谷区
 座標変換方法：(バイリニア補間法)

ver. 2012. 03. 23

座標系番号：9

変換する座標の名称：[2-1026]

	震災前成果(2000)	震災後成果(2011)
緯 度 B	35° 38' 26.85562	35° 38' 26.85569
経 度 L	139° 38' 25.56100	139° 38' 25.57191
座標X	-39,834.9090	-39,834.9072 m
座標Y	-17,469.3450	-17,469.0704 m
標高H	46.7700	46.7882 m
真北方向角	0° 6' 44.652	0° 6' 44.645
縮尺係数	0.99990376	0.99990376

3-2. 経緯度による入力

経緯度を入力することにより座標を変換する方法です。

- ①「入力データ形式」の選択欄で、「緯度 経度」を選択します。その後、「値のクリア」をクリックし、入力値及び変換結果値を空欄にします。

- ②変換する座標の名称を入力し、「Enter」キーを押下します。
- ③緯度を半角文字で入力し、「Enter」キーを押下します。
- ④経度を半角文字で入力し、「Enter」キーを押下します。
- ⑤標高値（H）を半角文字で入力し、「Enter」キーを押下します。

※緯度・経度の形式は、度・分・秒を区切らずに記述し、分および秒の整数部分は 2 桁とします。10 の位がゼロのときは空白とせず“0”としてください。また、秒のみ小数点を入力してください。緯度・経度の数字は半角で入力してください（入力例参照）。

<入力例> 入力値が「37 度 8 分 56.1234 秒」の場合

[緯度・経度の正しい例]

370856.1234 又は +370856.1234

[緯度、経度の間違った例]

370856 ← 秒の小数点以下が入力されていない

37_08_56.1234 ← 度・分・秒の区切りが半角スペースとなっている

37:08:56.1234 ← 度・分・秒の区切りがコロンとなっている

37-08-56.1234 ← 度・分・秒の区切りがハイフンとなっている

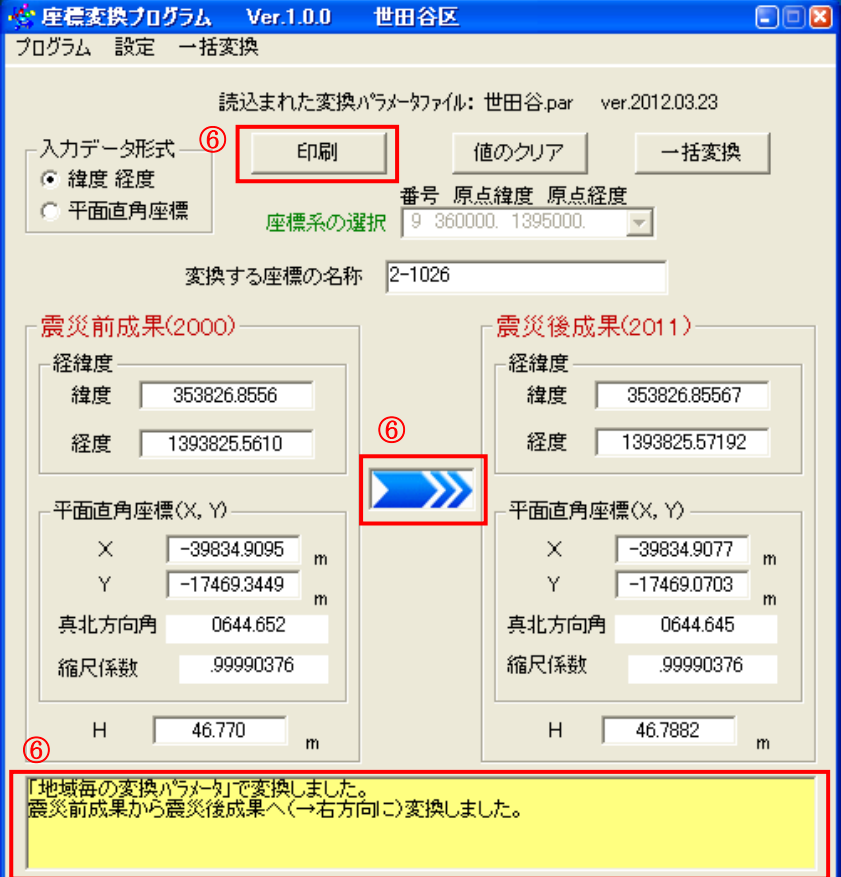
37.08561234 ← 度と分の間に小数点が入っている

37 856.1234 ← 分が 1 桁になっている

3 7 8 5 6 . 1 2 3 4 ← 数字が全角となっている

※③、④、⑤すべてを入力しないと変換できずエラーになってしまうので、必ず入力するようにしてください。

⑥座標変換は、中央の矢印ボタンを押下（または「Enter」キーを押下）し、座標変換結果を確認します。パラメータで変換できたかどうかは、カランのメッセージボックス（最下段）に表示されます。座標変換結果を印刷する場合は、「印刷」ボタンを押下します。



座標変換プログラム Ver.1.0.0 世田谷区

プログラム 設定 一括変換

読み込まれた変換パラメータファイル: 世田谷.par ver.2012.03.23

入力データ形式 ⑥

☒ 緯度 経度

☐ 平面直角座標

印刷

値のクリア

一括変換

座標系の選択

番号 原点緯度 原点経度

9 360000. 1395000.

変換する座標の名称

2-1026

震災前成果(2000)

経緯度

緯度 353826.8556

経度 1393825.5610

平面直角座標(X, Y)

X -39834.9095 m

Y -17469.3449 m

真北方向角 0644.652

縮尺係数 .99990376

H 46.770 m

震災後成果(2011)

経緯度

緯度 353826.85567

経度 1393825.57192

平面直角座標(X, Y)

X -39834.9077 m

Y -17469.0703 m

真北方向角 0644.645

縮尺係数 .99990376

H 46.7882 m

⑥

「地域毎の変換パラメータ」で変換しました。
震災前成果から震災後成果へ(→右方向に)変換しました。

4. 一括变换

4. 一括変換

一括変換は、変換する座標を定められた形式のテキストファイルとして作成し、そのファイルを読み込んで、変換し結果を出力ファイル（テキストファイル）に書き出します。一括変換による変換方法は、下記のとおりです。

4-1. 設定

- ①メニューバーの「一括変換」を選択するか、「一括変換」のボタンを押下します。

ファイル一括変換の画面が表示されます。

②入力値の形式と出力値の形式を選択します。入力値及び変換出力値の規定値は、「平面直角座標」です。

③座標系を確認します。座標系は、パラメータの情報として固定されますので任意に選択することは出来ません。

ファイル一括変換

震災前成果から震災後成果への一括変換

1. 処理の選択

☐ 緯度・経度・H → 緯度・経度・X・Y・H

☒ X・Y・H → X・Y・H

☐ X・Y・H → 緯度・経度・X・Y・H

2. 座標系の選択

番号 原点緯度 原点経度

9 360000. 1395000.

3. データファイルの選択

入力ファイル 変換前の座標値ファイル

出力ファイル 変換後の座標値ファイル

☐ ファイル内容の表示

入力ファイル形式の説明

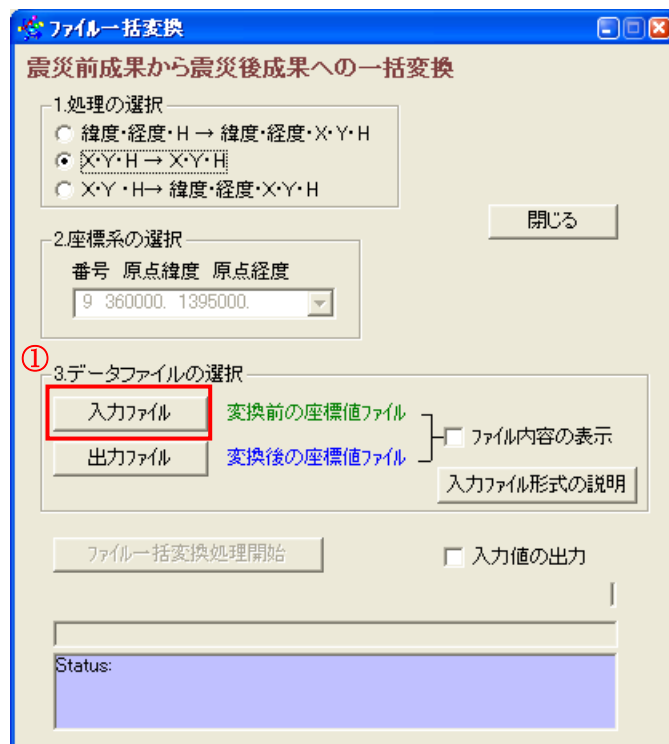
ファイル一括変換処理開始

☐ 入力値の出力

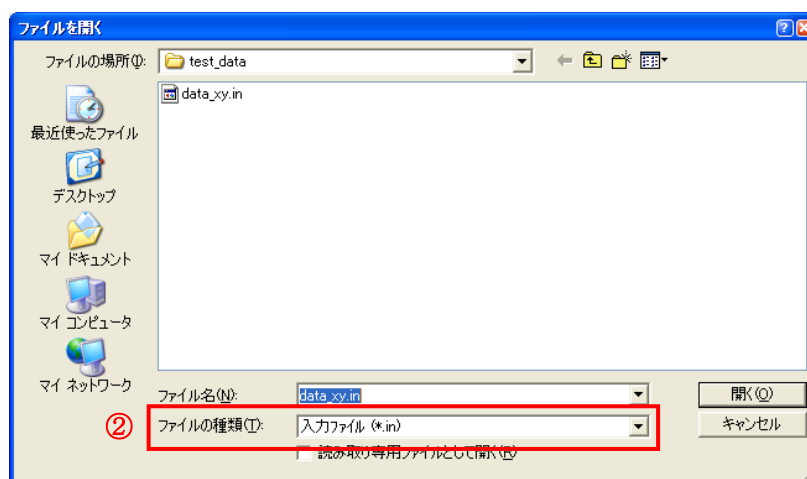
Status:

4-2. データファイルの選択

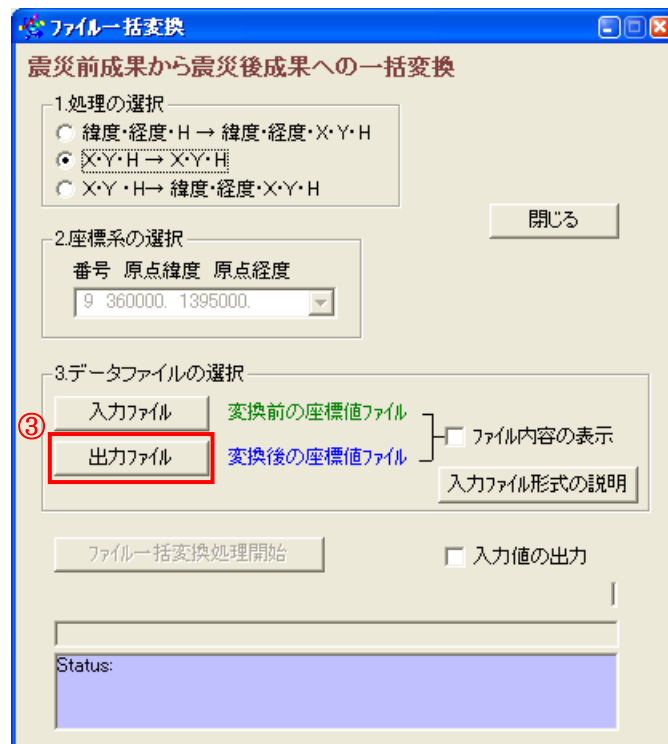
①入力ファイルを選択します。「入力ファイル」のボタンを押下します。



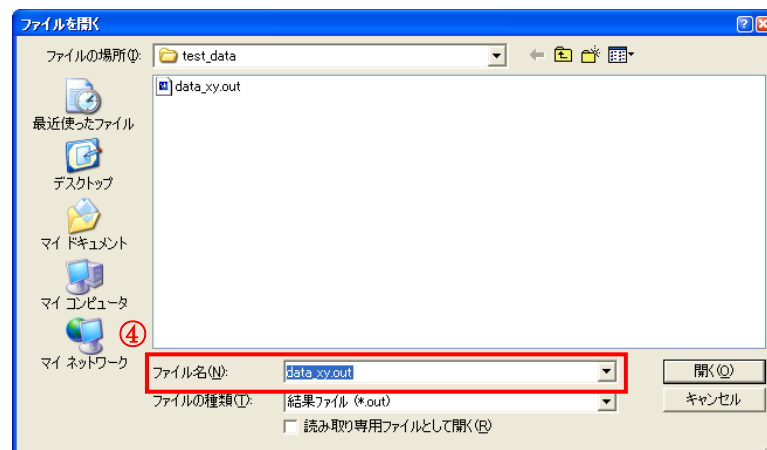
②ファイルの一覧より、該当する入力ファイルを選択します。規定値は、拡張子が「.in」のファイルを一覧しますので、拡張子が違うファイル（テキストファイル「.txt」等）を使用する場合は、「ファイルの種類(T)」の右側の  を押してすべてのファイルを一覧できるようにします。



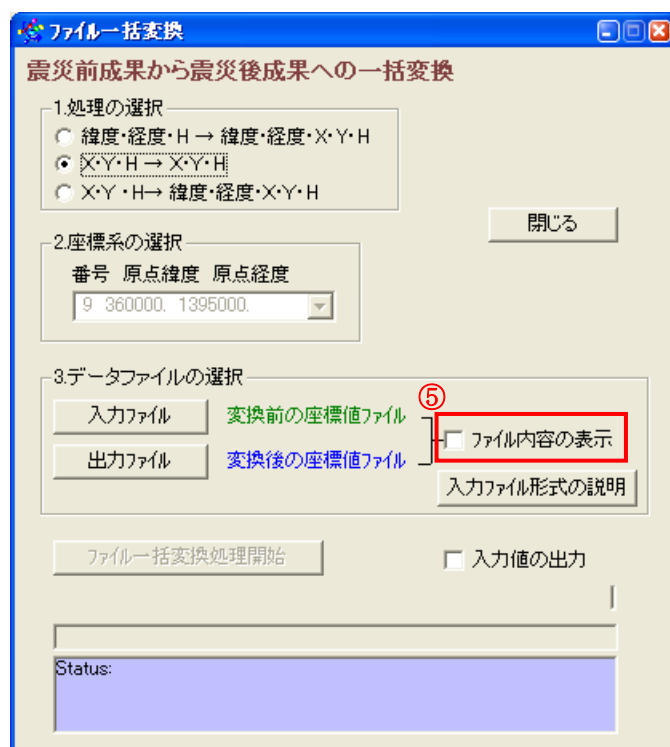
③出力ファイルを選択します。「出力ファイル」のボタンを押下します。



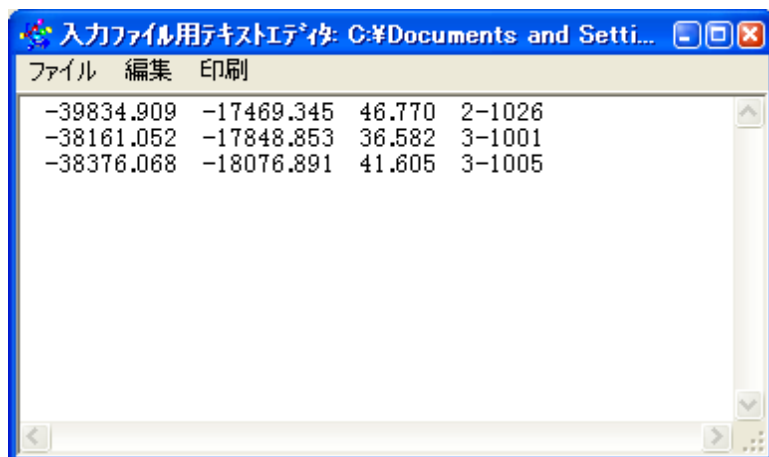
④ファイルの一覧より、該当する入力ファイルを選択します。規定値は、入力ファイルの名称に拡張子が「.out」のファイルを一覧しますので、出力ファイル名を任意に変える場合は、「ファイル名(N)」に記入します。



⑤「ファイル内容の表示」をチェックすると、入力ファイルを表示し、編集することが出来ます。また、出力ファイルについても確認することが出来ます。



[入力ファイルの表示例]



⑥「入力ファイルの形式説明」のボタンを押下すると、入力ファイルの記入説明が表示されます。

ファイル一括変換

震災前成果から震災後成果への一括変換

1. 処理の選択

☐ 緯度・経度・H → 緯度・経度・X・Y・H

☒ X・Y・H → X・Y・H

☐ X・Y・H → 緯度・経度・X・Y・H

2. 座標系の選択

番号 原点緯度 原点経度

9 360000. 1395000.

3. データファイルの選択

入力ファイル 変換前の座標値ファイル

出力ファイル 変換後の座標値ファイル

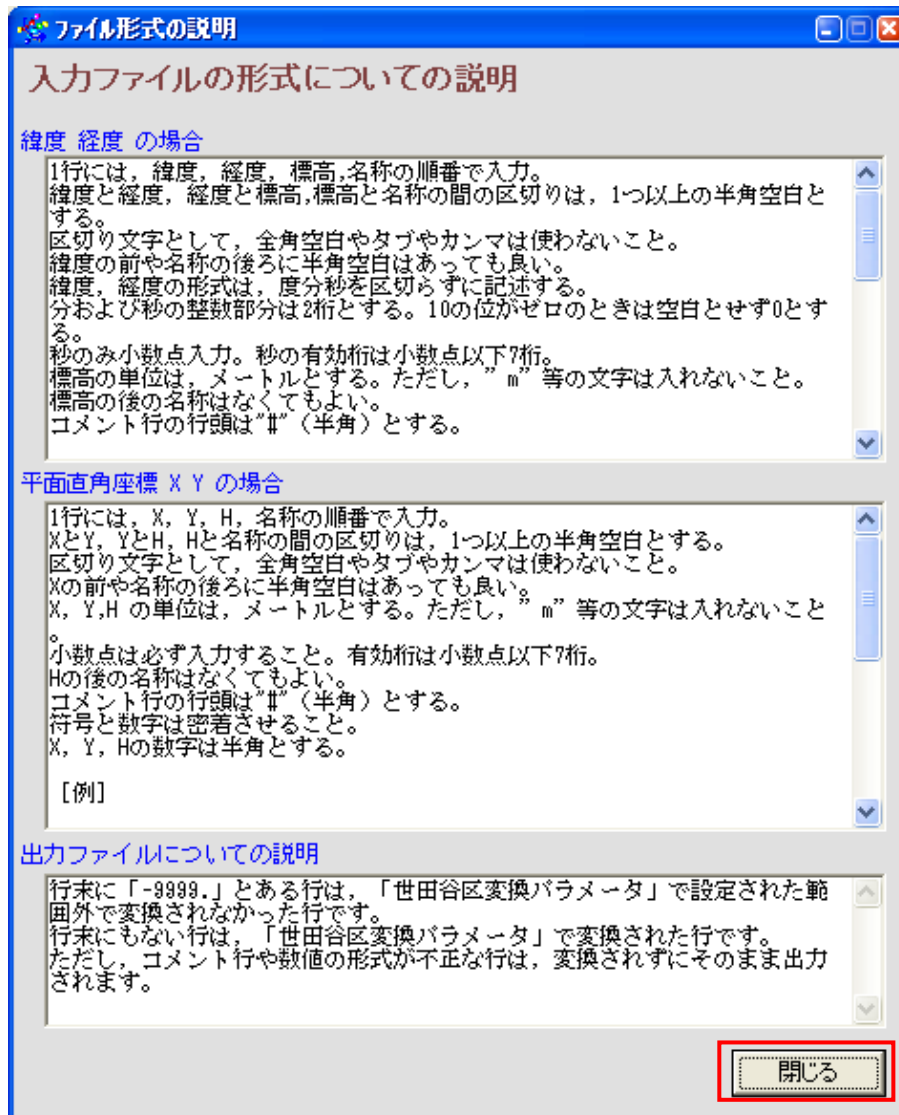
☐ ファイル内容の表示

⑥ 入力ファイル形式の説明

ファイル一括変換処理開始 ☐ 入力値の出力

Status:

[入力ファイル形式についての説明]



確認したら、「閉じる」ボタンを押下して画面を閉じます。

4-3. ファイルの一括変換処理開始

①入力値の表示

入力値の出力をチェックすると、出力ファイルに入力値も表示されます。

②変換処理開始

「ファイル一括変換処理開始」ボタンを押下すると、変換を開始します。

[出力ファイルの表示例]

震災前成果(入力値)			震災後成果 (計算値)		
X(m)	Y(m)	H(m)	X(m)	Y(m)	H(m)
-39834.9090	-17469.3450	46.7700	-39834.9072	-17469.0704	46.7882
-38161.0520	-17848.8530	36.5820	-38161.0548	-17848.5727	36.5952
-38376.0880	-18076.8910	41.6050	-38376.0703	-18076.6119	41.6203

4－4．一括変換の終了

変換中は「処理中止」ボタンが表示され、変換が終わると「閉じる」ボタンに変わります。

変換中に中断する場合は、「処理中止」ボタンを押下します。終了する場合は、「閉じる」ボタンを押下します。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "ファイル一括変換" (File Batch Conversion). The main heading is "震災前成果から震災後成果への一括変換" (Batch conversion from pre-disaster results to post-disaster results). The dialog is divided into three sections: 1. 処理の選択 (Selection of processing), 2. 座標系の選択 (Selection of coordinate system), and 3. データファイルの選択 (Selection of data files). In the first section, the second radio button is selected. In the second section, a dropdown menu shows "9 360000, 1395000". In the third section, there are buttons for "入力ファイル" (Input file) and "出力ファイル" (Output file), with corresponding labels for "変換前の座標値ファイル" (Pre-conversion coordinate value file) and "変換後の座標値ファイル" (Post-conversion coordinate value file). A checkbox for "ファイル内容の表示" (Display file content) is checked. A button for "入力ファイル形式の説明" (Explain input file format) is also present. At the bottom, there is a button "ファイル一括変換処理開始" (Start file batch conversion processing) and a checkbox "入力値の出力" (Output input values) which is checked. The status bar shows "処理状況 100.0% 3行" (Processing status 100.0% 3 rows) and a progress bar that is fully filled. A message box at the bottom states "ファイル一括計算処理が終了しました。 3行を処理しました。" (File batch calculation processing has completed. 3 rows were processed.). A "閉じる" (Close) button is highlighted with a red rectangle in the top right corner.

ファイル一括変換

震災前成果から震災後成果への一括変換

1.処理の選択

☐ 緯度・経度・H → 緯度・経度・X・Y・H

☒ X・Y・H → X・Y・H

☐ X・Y・H → 緯度・経度・X・Y・H

2.座標系の選択

番号 原点緯度 原点経度

9 360000, 1395000

3.データファイルの選択

入力ファイル 変換前の座標値ファイル

出力ファイル 変換後の座標値ファイル

☒ ファイル内容の表示

入力ファイル形式の説明

ファイル一括変換処理開始

☒ 入力値の出力

処理状況 100.0% 3行

全 3行

ファイル一括計算処理が終了しました。 3行を処理しました。